



文責 本宮小学校長 佐久間仁

二期の実践事項



前号でお伝えした全国学力学習状況調査結果や、一学期の指導の成果と課題を踏まえ、二学期の具体的な実践事項を検討しました。特に、次のような点に力を入れて指導にあたっています。

【考える子（知）】

○友達の話をよく聞き、相手を意識して自分の考えを伝えることができるようにする。

- ・全員が声を出せる機会を毎時間意識して設ける。（一〜二分程度）
- ・内容は、友達の説明の言い換え、疑問点、考えの説明など（誰もが話せるテーマとする）

○自分の考えを、言葉で筋道立てて表現することができるようにする。

- ・口頭で表現した内容をもとに、自分の考えを短い文でまとめる時

間を設ける。

- ・話したことをそのまま書くのではなく、書くことで考えが整理されたり深まったりするような支援を行い、定着を図る。

【思いやりのある子（徳）】

○時や場、相手に応じたあいさつができるようにする。

- ・目指すあいさつの仕方を伝える。
- ・自分に合ったあいさつの仕方を考えさせ実践させるとともに、さらにレベルアップを目指すように、いろいろなあいさつの仕方を示す。

- ・あいさつが上手な児童を称賛し、紹介する。

○きまりを守って生活できるようにする。

- ・よい子の一日、服装のきまり、日課表、学習用具の約束などを児童と確認する。教職員間でも共通理解を図り、きまりを実践する。

○自分をよりよく高めることができるようにする。

- ・道徳、特別活動を充実させる。
- ・児童会、係活動の意義を子どもたちに理解させる。
- ・自分たちの活動には、どんな意義・よさがあるのか児童が実感できる反省・振り返りをさせる。

【やりぬく子（体）】

○自分たちの学校は自分たちできれいに清掃できるようにする。

- ・清掃の仕方を確認する時間を確保する。

○最後まであきらめずに走り続けることができるようにする。

- ・マラソンタイムの十分間は歩かないようにする働きかけを行う。

【その他（特別支援）】

○（自立の視点から）自分たちでできることを増やせるようにする。

- ・支援学級担任と交流学級担任が情報共有を密にし、目標を確認しながら指導支援にあたっていく。

○（社会参加の視点から）お互いの違いを認め合えるようにする。

- ・道徳、学級活動等の時間を使って、支援学級や障がいをもつ児童への正しい理解を進めていく。

- ・共生社会の実現を意識した働きかけ（座席、グループ分け）

体 カテストの結果から

六月に四〜六年生を対象に実施した体力テストについて、結果の概要をお伝えします。

【実施内容】

- ・握力 ・上体起こし ・長座体前屈 ・反復横跳び ・二十mシヤトルラン ・五十m走 ・立ち幅跳び ・ボール投げ



【結果概要】

- ・六年生は男女ともに合計得点の

平均値が目標値を上回りました。

- ・四、五年生は男女ともに合計得点の平均値が目標値を下回りました。

- ・種目別では、上体起こしは全学年で全国平均並みかそれ以上の結果でした。一方で、二十mシヤトルラン、五十m走、ボール投げは全国平均を下回る結果となりました。これら三種目以外でも、学年によって落ち込んでいるところがあるため、これまでの取組を継続し、バランスよく力を付けていくとともに、各能力で全国・県平均を上回るようにしていきます。

- ・酷暑の影響で、業間のマラソンタイムを予定どおり実施できない日があったので、業間だけでなく、体育の時間に補強できるようにしていきます。学年ごとに補強すべき能力が異なるため、運動身体づくりプログラムに取り組みながら、各学年の実態に応じて補強運動を取り入れていくようにします。

【お知らせ（お願い）】

○リバーでもお伝えしたように



九月三日（水）からさわやか調べを実施します。「メディアの使い方について（お家の人との約束）」を記入して、二十九日までに担任へご返却ください。メディアの約束が守れるよう引き続き声かけをお願いします。